

今こそみんな考えてよう

## 新型コロナウイルスと自然災害

5月14日、緊急事態宣言の対象地域から除外された山形県。「新しい生活」が始まり、「日常」を取り戻しつつある現在。今、「もしも」の災害が起こったら、どう行動すべきか。

平成30年8月、町を襲った集中豪雨の被害状況です。



1



2



3

1-旧林業センター付近での直径6mの落石。  
2-各地で畦畔が崩落。農地にも多大な被害をもたらした。  
3-上台川の増水により護岸が崩落。町有道のあちこちで水路が氾濫。

世界各国で新型コロナウイルスがまん延し、日本国内でも感染者が1・7万人、死者が9百人を超えるなど、長きにわたり感染症の脅威にさらされた日本は、4月7日に新型コロナウイルス感染症に関する初めての「緊急事態宣言」を発出しました。全国で不要不急の外出制限や、休業要請、密閉、密集、密接の3つの密を避けることなど、約1カ月間にわたった自粛生活。皆さんのご理解とご協力により、山形県では5月14日、緊急事態宣言の対象地域から除外されました。「新しい生活」が始まり、「日常」を取り戻しつつある現在。小・中学校が再開し、商店や飲食店も人が戻ってきていますが、いまだ感染経路が不明な感染者が報告されるなど、完全に収束したとは言えない、不安定な状況にあります。

そんな中、これから迎える出水の時期。昨今は特に、豪雨や台風などの水害が起こる可能性が高まっています。平成30年8月には、山形県北部を中心に記録的な大雨に見舞われ、24時間降水量は312・5ミリと観測史上最大を記録したことが記憶に新

しいのではないのでしょうか。あの時は「まさか自分の住むところで」と経験したことのない雨に恐怖を感じた方もいらっしゃるのではないかと思います。しかし、どんなに被害を受けても復旧し以前の状態に戻ると、被害状況を忘れてしまいがちです。「もうあんなことないだろう」と油断してはいませんか。自然災害は容赦なく襲ってきます。新型コロナウイルス感染症に加え、地震・大雨・暴風、それに起因する土砂崩れや浸水被害——。大規模な災害が起きた場合「同タイミングで複数の被害が起こる」など同時多発的に被害が発生するケースがほとんどです。「災害多発時代」に直面する現在の日本では、ここは大丈夫という確証はありません。

防災は、県や町による「公助」、地域の住民やボランティアの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」を組み合わせた対応が重要です。町では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、「複合災害」に対し万全な対策を整えていきます。町民の皆さまも「自らの命は自分で守る」意識を高め避難経路の確認や備蓄の準備など、自分や自分が大切と思う人の命を守るために、一緒に考えてみましょう。